

今年度も関東高等学校体育大会サッカーの部千葉県予選が開催された。令和4年4月29日から令和4年5月10日にかけて決勝トーナメントが行われ、各チームが鎬を削り合った。優勝は日体大柏高校、準優勝は専修大松戸高校、3位は暁星国際高校、習志野高校という結果になった。新人戦が延期になった影響で、今大会は32チームによる決勝トーナメントと枠が広がり、1部から4部リーグに所属するチームが幅広く出場したが、ラウンド8以降は全て1部から2部に所属するチームとなった。

### 【今大会の傾向】

#### ①セットプレー

得点の多くを占め、勝敗を分ける大きな要因となった。近年、セットプレーは日本代表や海外でもセットプレーコーチが導入されるなど、注目度が高い。また、分析技術のクオリティーが年々向上しており、編集した映像などを用いて対戦相手の特徴把握などが容易にできる。そのような細部にこだわった準備がセットプレーによる得点にもつながっている可能性がある。また、それぞれのチームが精度と質の高いキッカーを擁しており、今後も試合の勝敗を分ける要因となりそうだ。

#### ②各チームのスタイルを大切にす

相手に合わせてコンセプトや戦術を変更するのではなく、自チームのスタイルを大切にしながらゲームを展開する傾向にあった。お互いのチームの良さ・特徴を全面に出し合った力と力がぶつかり合う戦いが多く見られ、その中で、フィジカルコンタクトやスピード、テクニック、メンタルなど選手の個で上回るチームが上位進出を決めた。

#### ③攻撃について

ビルドアップによって前進を図ろうとするチーム、前線からプレスをかけ前向きにボールを奪い素早くゴールに向かうチームなど、スタイルはそれぞれであるが、アタッキングサードではサイドを起点として攻撃するチームが多い。準決勝と決勝でもサイドレーンに突破力のある選手を配置し、個の仕掛けや意図的に数的優位を作ることで相手陣地の深くまで侵入し、多くのチャンスを作り出した。しかし、クロスは上がるものの、クロスに対して入るタイミング、DFの立ち位置をみて的確にスペースをつくなど、オフ・ザ・ボールについては課題が残るようみえる。また、スピードでチームの推進力になるような選手が多い反面、バイタルエリアを個の力で打開し、相手に脅威を与えるストライカーが今後現れることを期待したい。

#### ④守備について

セットプレーによる失点を防ぐために、GKを含めて状況や相手の特徴を見て組織的かつ効果的に守ることが必要である。また、守備時にチームとして前線からプレスをかけようとするチームが多いが、1stDFが相手との距離を詰められないと制限がかからず、後ろが連動できていない状況が見られた。前向きにボールを奪いカウンターに繋げるために、相手・味方・スペースを観て予測・判断することや味方選手のコーチングを頼りに1人1人の選手がもっとアプローチの質にこだわり、チームで連動したい。

### 【最後に】

観客数の制限が緩和され各会場において多くの観客が見守る中、ピッチに立つ選手たちは周囲の声援に後押しされ、エネルギー溢れる試合を展開していた。徐々に日常を取り戻しつつある今、改めてサッカーができることを幸せに感じる。今大会が開催され無事終えられたこと、また、大会の運営に携わっていただいた全ての方々に感謝の意を表すとともに、優勝した日体大柏高校、準優勝した専修大松戸高校の関東大会での活躍を期待し、令和4年度関東高等学校体育大会サッカーの部千葉県予選会の総評とさせていただきます。